

# OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



## プロフィール (Profile)

氏名 滝本萌子  
所属 大阪公立大学 商学部  
学年 2 回生

留学先 (Name of overseas institutions)  
ビクトリア大学 University of Victoria

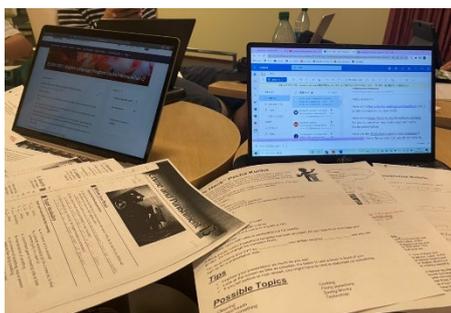
留学期間 (Study abroad period)  
2022/8/14~2022/8/29

記入日 (Date) 2022/9/11

## 留学レポート Study Abroad Report

この度、GC 副専攻の授業の一環で、カナダのビクトリア大学に 2 週間短期の留学をしました。私自身、家族旅行や修学旅行で海外を訪れたことはあったのですが、いつも周りの人に頼ってばかりで、自分自身で現地の方と直接話したり、買い物をしたりする機会はほとんどありませんでした。高校 2 年生の時に修学旅行でオーストラリアのシドニーを訪れ、友人と 2 人で 3 泊のホームステイをしたのですが、その際に現地の方の独特な発音や話す速さに慣れることができず、コミュニケーションを取ることが非常に困難でした。高校時代の得意科目は英語だったのですが、実際の会話を通して言語の壁にぶつかったことで、話す力と聞く力が不足していることを痛感しました。そのため、現地の人とコミュニケーションをとることに積極的にチャレンジして、苦手を克服することを目標に掲げ、今回の留学に臨みました。加えて、事前にカナダについて知っていることはメープルが有名ということだけで、カナダに関する知識はほとんどありませんでした。ビクトリアを訪れる前に、副専攻の授業でカナダクイズを行ったのですが、州構成や政府の体制など、そもそも国について知らないことが多くありました。調べればわかることだけでなく、日常生活の様子や人柄など、現地に行ってこそわかる文化について留学を通して深く学びたいと考えていました。

まずビクトリア大学について少し紹介します。ブリティッシュコロンビア州の公立大学で、学生数は約 22,000 人と大規模な大学です。キャンパスはとても広く自然であふれ、リスや鹿などの動物もいました。キャンパス内にはカフェテリア、売店、スターバックスコーヒーや理髪店、スポーツジム、さらには映画館まであり、キャンパス内で生活することで、とても魅力的でした。大学内に学生寮があるため、大学内のみで生活ができる環境が整えられているというところが、日本の大学とは違い、とても興味深かったです。またダウンタウンに出られるバスが大学から多く出ているので、街へ買い物にも行きやすく、とても便利でした。



そんなビクトリア大学で 2 週間、実際に授業を受けました。もちろん授業中は常に英語で、積極的に会話することが強く求められました。課題はほぼ毎日出され、たった 2 週間の内にプレゼンテーションを 3 回ほど行いました。事前調査や準備に与えられるのは 2 日間の内の限られた時間で、本番では原稿を見ることもできなかったため、かなり苦戦しました。夜に学生寮内の談話室に友人と集まり、深夜まで課題について共有したり相談したりしていました。ほぼ毎日課題に追われ、辛いこともありましたが、自分の言葉で話す力の向上につながりました。また、友人との会話や準備を通して、自分の意見を英語で伝える力が培われ、友人の発表や先生のアドバイスを聞くことで、英語を聞いてすぐに理解する力が培われました。授業で先生に言われて印象に残っていることは、

「ミスを恐れずにたくさん発言しよう」という言葉です。日本人は間違えることを恥ずかしくて、意見を言うことに対して消極的な傾向があります。しかし黙っていても相手には何も伝わりません。他国の人に対してはなおさらです。自分の考えを積極的に発言することの重要性を改めて感じました。平日は授業や大学側が用意してくれた企画に参加したり、スポーツをしたりビーチに行ったりしていましたが、土日はフリータイムだったので、自分たちで計画を立て、ビクトリアとバンクーバーを観光しました。バンクーバーはビクトリアよりも都会で、様々な人種に人が生活していました。遊びと勉学を両立して過ごした貴重であつという間に過ぎた2週間でした。



この留学を通して文化に関して感じたことは3つあります。まず1つ目に人間性の違いです。買い物をする際や、バスを利用する際、ほとんどの人が欠かさず“Thank you”と相手に伝えていました。その一方、日本のようにお客様が神様という考え方はなく、働いている人とお客さんの立場が対等で、とてもフレンドリーな印象を受けました。また、街中で全然知らない人から話しかけられることが多く、少し世間話をするがありました。日本では普段見られない光景です。このように人当たりがいい一方で、少し道に広がって歩いたり、自転車の前を横切って危ないことがあったりすると、少し非難されることもありました。空気を読んで相手の顔色を窺う文化のある日本とは異なり、思ったことを口に出して直接相手に伝えようとする文化があることを強く感じました。



2つ目は食事についてです。やはり日本食に比べてカナダの料理はバリエーションが少なく、ハンバーガー、ピザ、サンドイッチ等をほぼ毎日食べていました。日本ならではの出汁の味や味噌汁が恋しくなることが多々ありました。そして食べ物に関して驚いたことといえば、物価の高さです。今回の留学はかなりの円安状況下の中で行われたので、より高く感じられました。カナダでマクドナルドを訪れたのですが、日本では600円ほどで食べられるセットメニューが、現地では12カナダドルほどしました。当時1カナダドル約108円だったので、約1300円ほどです。改めて日本の物価の安さを感じました。海外で特有のチップ文化がカナダでもあり



レストランで食事をした際は合計金額の15%ほどのチップを払います。さらに税金も払わなければならないので、これらが物価が高いと思われる要因の1つでもあります。また、寿司として売られている商品はほとんどカリフォルニアロールで、カナダはサーモンが名産ということもあり、サーモンを使った寿司がほとんどでした。さらに、カナダはアメリカの隣に位置する国なので、食事の量がとても多いイメージでしたが、意外とそういうわけではなく、量に関しては日本と大差はありませんでした。私は体調にほとんど変化がありませんでしたが、友人の何人かは食生活になれず、体調を崩す人もいました。やはり食生活の違いは日常生活に大きな影響がありました。

3つ目は街並みについてです。海外ではよく見かける光景ですが、愛国心から来ているのか、至る所に国旗が飾られています。日本で国旗が街中に飾られていることは滅多に見られません。加えてダウンタウンには歴史的な建物も多く非常に趣のある街並みが美しく、カナダで有名なトーテムポールが、街の中はもちろん、大学でも見られました。昔の文化を大切にしている面もとても魅力的でした。しかし、カナダでは大麻が合法とされており、ときどき街中で大麻を吸っている人を見かけることができました。また、街中にホームレスが多くいました。やはりどの国でも経済格差が深刻な問題であるのだと実感しました。



この留学を通して、学べたことももちろんありましたが、更なる学びにつなげるためには、日常で英語のみ使う環境に身を置くことが大切だと強く感じました。今回は学生寮に1人で宿泊、かつ大学が夏休み中のために大阪公立大学の副専攻のクラスのメンバーと一緒に授業を受けました。そのため、他国の留学生や現地の学生と関わる機会がほとんどなく、友人との日常会話は基本日本語で行っていました。ずっと英語を話す環境に身を置かなければ、英語で話すことにチャレンジしたり新たな会話表現を学んだりすることはできません。もし改善するとすれば、他国の生徒とともに同じ授業に参加する、またはホームステイをしてホストファミリーとともに長い時間を過ごし、実践的な英語力の向上につながったのではないかと感じました。現地には、日本や韓国からの留学生が多く来ていて、1か月の短期留学の人もいれば半年から1年弱ほどの長期留学をしている人もいました。このように留学先には志の高い人がたくさんいます。今回の留学は当初1か月間の予定でしたが、コロナの状況や大学側の都合により、2週間という短い期間になってしまったことが非常に残念でした。帰国後も、オンラインで授業を受けていますが、日本人ならではの英語の発音や、ネイティブに好まれる文法など、他国の先生だからこそ感じる違いや間違いについて学んでいます。しかし、やはり現地の人との関りや、会話で使われる言葉や言い回しをもっと多く学びたかった、と悔やまれます。ぜひ、留学を考えている方は、長い期間の留学にチャレンジしていただきたいと思います。